上町台地界隈の情報紙

揮毫
一心寺 長老
髙口恭行 師

2024年1・2月号
号外 2024 1

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第15回

慶沢園（天王寺区）

大阪を代表する名園「慶沢園」（写真右）は、もともとは住友家本邸の庭でした。１９０８（明治41）年に造園を開始し１９１８（大正７）年に完成。手がけたのは近代日本庭園の先駆者とされる作庭家・小川治兵衛（七代目）で、平安神宮の神苑や円山公園など小川の作品のいくつかは国の名勝にも指定されています。

有名な庭園の多くが池とその周囲を巡る園路を中心に作庭する池泉回遊式なのに対し、ここは池、築山、曲水、樹林などを眺めながら一回りすると絵巻物を観たような感じになるという林泉回遊式です。池越しに美術館が見えたり、小さな滝や飛び石があったりと随所に仕掛けがほどこされており、飽きることがありません。まさに都会のど真ん中にあるオアシス。一方で、これだけのものをつくった住友家の財力に驚かされます。

ところが、完成からわずか３年で住友本家は神戸に移転。隣接する敷地（現在の大阪市立美術館）とともにこの庭園は大阪市に寄贈されました。結果的に、オアシスは市民のものとなり、気軽に楽しめるようになったのでした。

見どころはいくつもありますが、やはり池に映し出された「逆さハルカス」はぜひ、写真に収めたいものです（写真左）。２００種類にも及ぶ木々が植えられており、春の桜や秋の紅葉など季節ごとに草木を楽しむのも一興でしょう。

逆さハルカスが見られるのはここだけ

慶沢園には様々な紅葉があり長く楽しめる

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

らくごハローワーク

相羽秋夫の

第25職 打ちすぎて鳴らなくなった『たいこ腹』

幇間（ほうかん）とは、酒席でお客にさまざまな芸を見せて座を盛りあげる職業の人である。幇には助けるという意味があり、お客と芸者や遊女たちの間でサービスの補助をする、との意味である。江戸宝暦年間（１７５１～６４年）に職業と意識され、文化文政年間（１８０４～３０年）に最盛を迎えた。

太鼓とも太鼓持ちとも称する。太鼓をたたく時に相づちを打つ状態に似ているところから名付けられた。また男芸者とも呼んだ。さらに、本社に所属する小さい神社を末社（まっしゃ）と言うが、幇間もそれに似ているからと、末社と言われた。また吉原遊郭では、太夫と称せられた。

お喋り上手なので、落語家に転向した人も多く、４代目桂文楽が有名である。幇間としては、桜川の一門が主流で、戦後も桜川ピン助と名のる人が、寄席の世界でも活躍した。

残念ながら、現在ではこの仕事を継ぐ人はいない。

◇

幇間の一八（いっぱち）は、なじみの旦那から声が掛かりお茶屋に行く。旦那は近頃、鍼（はり）に凝（こ）っていて、いつもは、野菜や空気枕で練習していた。動くものに打ちたいと猫に試みるが、反対にひっかかれる始末。そこで、一八のお腹を借りて鍼を打ちたいと言い出す。

断る一八に「１本につき１両やる」と好条件が出たので一八は承知する。だが、何本打っても鍼が途中で折れ、一八の腹は血まみれになる。それを見て旦那は逃げ帰ってしまう。事の次第を知ったお茶屋の女将「おまえも鳴らした太鼓なのにねえ」と同情すると一八「いや、皮が破れて鳴りません」。

◇

鍼術は、中国伝来の東洋医学の一つで、留針に似た金・銀・鉄・石などで造った鍼を、患部に打って治療する。神経痛・リウマチ・五十肩・腰痛などに用いられる。現代の日本では、健康保険が適用される。一八の病状は適用外だが。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06・6779・7222

「凧づくりと凧あげ」

大阪歴史博物館との共催で、わくわく子ども教室を1月27日(土)に開催します。古くから凧あげの名所として知られる馬場町で遊びを通して大阪の歴史にふれてみてください。

時間：13時30分～16時30分
場所：博物館研修室
参加費：1組500円
定員：先着30組(申込順)、要予約
申込：大阪歴史博物館HPより

住まいと暮らしの総合無料相談会

2月10日(土)・3月9日(土)
10時～12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください（電話受付は平日10～15時）。

主催：NPO法人まち・すまいづくり（市立社会福祉センター指定管理者）
電話：06・6779・7222
場所：大阪市立社会福祉センター（天王寺区東高津町12・10）
後援：天王寺区役所

第44回うえまち寄席

3月2日(土)14時開演

桂佐ん吉、桂ちょうばによる、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET（チゲット）」からも予約可能です。

場　所：一心寺南会所(天王寺区逢阪2・7)
入場料：2000円

詳しくはうえまち新聞web版をご覧ください。

上町台地界隈の情報紙

揮毫 一心寺 長老 髙口恭行 師

2024年1・2月号
号外 2024 2

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第16回 池田屋本舗（住吉区）

「住吉津」が外交の窓口であった古代より、住吉の町は栄えていました。ただ、いまでこそ鉄道の駅周辺にお店などは集中していますが、江戸期までは住吉大社の東側が町の中心、人通りも多く繁華だったといいます。というのも、そこには南北に熊野街道が、東西に住吉街道が走っていたからです。

池田屋本舗（写真右）はこの2本の大道がクロスする場所にあります。

製造する「住乃江味噌」は明治時代に誕生。明治、大正、昭和の3代の天皇にも献上された「名物」です。登録有形文化財指定の建物も同じく明治（1890年ごろ）に完成しました。入母屋造りの2階建て。角近くの高灯籠が目立ちますが、虫籠窓（むしこまど）やうだつ、屋根の上にちょこんと乗った鐘馗（しょうき）さんなど随所に見どころがあります。

戦争による被害が少なかった住吉大社周辺は昔の道が非常に多く残り、歴史の積み重ねを感じることができます。とくに大社の東側は13体の石仏で有名な宝泉寺（写真左。平安期に恵心僧都が創建）など古寺が多く、仏像を見て回る「仏女」の姿も見かけるようになりました。とはいえ、まだまだ広く、その魅力が知られているとはいえません。

〝住吉さんの東〟は、まさに見直されるべき名所といえるでしょう。

宝泉寺の十三仏は一つの石からつくられた

池田屋本舗の創業は室町時代の1531年

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

相羽秋夫の らくごハローワーク

第26職 『お七の十』足し算すれば答出る

江戸期の天和2（1683）年12月、本郷追分（現在の東京都文京区）の八百屋太郎兵衛一家は、大火で焼き出され、駒込（文京区から豊島区の一帯）の正仙寺に避難。太郎兵衛の娘お七（おしち）は、寺の小姓、生田庄之助（小説では吉三＝きちざ）と恋仲になる。火災も一段落し、本郷に帰るにあたり、お七は庄之助恋しさに火をつける。その罪により火あぶりの刑が鈴ヶ森（品川区）で執行された。

この史実を井原西鶴が小説『好色五人女』で紹介し、浄瑠璃や歌舞伎になった。

落語『お七の十』は、この物語の後日譚である。

◇

小姓の吉三は、お七の死に接し悲観して吾妻橋（台東区と墨田区に架かる）から身を投げる。

地獄で再会した2人、思わず熱い抱擁をすると「ジュー」と大きな音がした。そのはずである。お七が火あぶり、吉三が入水自殺、火と水では「ジュー」と音がするのは当たり前だ。また女の名が七、男が三で、足せば「ジュー（十）」。

そのうち、お七の霊が鈴ヶ森に出るようになる。通りがかりの武士が「おまえのうらみを受けるいわれはない！」と、お七の両腕と片足を斬り捨てる。片足になったお七、一本足で逃げ出すので武士が「いずこへ参る」と問うと、お七の幽霊「片足（私しゃ）本郷へ行くわいな」。

◇

八百屋とは、青物（野菜）を扱う店である。〝八百（やお）〟というのは、たくさんの意味で、多くの野菜を商いする店のことである。

野菜を大別すると、葉菜・葉茎菜・果菜・根菜・花菜になる。芋類や豆類は、本来は別の店で扱うが、八百屋にも置いてある店が多い。

「八百屋防風（ぼうふう）」というセリ科の多年草がある。浜防風、伊勢防風とも称する。白色の小さな花をつける。香気があって、刺身のつまに使う。漢方薬では、感冒に効くと言われている。

「八百長」とは、通称で八百長と呼ばれた八百屋が、いつも碁の勝負に細工をしたことから、不正をすることの代名詞になった。

大人のための文章教室

ライター・編集者 松本正行

敬語は過剰より控えめが美しい

監督もおっしゃられていましたが、岡崎投手の調子はよさそうです。

テレビの影響は大きく、出演者が例文のような敬語を使うと一定数、「正しい」と思う人が出るものです。とくに敬語に慣れていない若者への影響は大きく、実にいろいろな場所で「おっしゃられる」を耳にするようになりました。とはいえ、これはやはり間違った敬語の使い方。典型的な二重敬語です。

◀

監督もおっしゃっていましたが、岡崎投手の調子はよさそうです。

「おっしゃる」は「言う」の尊敬語で、例文ではそれに「～れる」がついています。「おっしゃる」だけで十分、敬意が表されているので、「～れる」は必要ありません。このパターンは本当に多く、「お読みになられる」「ご覧になられる」などはすべて間違い。「お読みになる」「ご覧になる」が正しい使い方なのです（「読まれる」「見られる」にしてもOK）。

「『おっしゃられる』は許容されつつある」という見方もありますが、それでも二重敬語はまわりくどく、美しい言葉遣いと言えないのは確かです。せっかくのいい文章、いいスピーチも「二重敬語で台無しに」なんてことにならないよう注意しましょう。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。